



臨床研究部 からのお便り

第1回

ガーナの火焰樹の木陰から

当院には臨床研究部という部門があり、1)国際保健医療研究室、2)アレルギー疾患治療開発研究室、3)感染症学・免疫学研究室、4)代謝・神経・運動器疾患研究室、5)治験管理研究室の5つの研究室があります。患者さんによりよい医療を提供することとともに、医学の進歩、あるいは世界の人々の健康のためにいろいろな研究活動を行っていますので、今後、折に触れてお便りを差し上げたいと思います。

当院は三重大学医学部小児科学教室と協力して、1983年(昭和58年)よりガーナ大学野口記念医学研究所と国際共同研究を行っています。ガーナ共和国は西アフリカに位置する熱帯の国で、ギニア湾に面し、国土の多くは緑におおわれています(写真①)。イギリスの植民地時代には金をたくさん産出していたので、黄金海岸と呼ばれていました(ちなみに西は象牙海岸、東は奴隷海岸と呼ばれていました)。日本ではガーナチョコレートという名前のチョコレートが売られていますが、ガーナはチョコレートの原料であるカカオ豆の産地でもあります。

また、日本では野口英世博士がガーナの人々のために黄熱病の研究に行かれて、残念ながら志半ばで亡くなられた国としても知られています。2017年は野口英世博士がガーナに到着してちょうど90年目にあたりまして、野口英世90周年記念シンポジウムが行われました(写真②)。三重病院はこれまでに長年の協力の歴史があり、また現在もガーナにおける感染症対策のための共同研究

を行っていることからこのシンポジウムに出席させていただきました。福島県耶麻郡猪苗代町にあります野口英世記念館、在ガーナ



②記念シンポジウムポスター



①野口記念医学研究所の周りの風景

⑥野口英世銅像

日本大使館、国際協力事業団や日本医療研究開発機構などからの代表とともに、ガーナ保健省、ガーナ大学、そして歴代の野口記念医学研究所の所長などガーナ側からも多くのご参加により盛大に行われました(写真③)



④野口記念医学研究所



⑤中庭の火焰樹

野口記念医学研究所は、1979年に日本政府の援助により野口英世博士を記念して建設されたもので(写真④)ガーナの首都アクラ市を見下ろすレゴンの丘にあり、中庭には火焰樹が熱帯の強い日差しを遮ってくれています(写真⑤)。また、90年前に野口英世博士が研究をした建物は現在記念館として残されていて、ガーナ大学医学部の庭には野口博士の銅像が建てられています(写真⑥)。

当院におけるガーナとの関係は、先々代の院長の(故)神谷 齊先生が始められ、歴代の先生方のご努力により継続されてきたもので(写真⑦)、志を引き継ぎ、ガーナの子供たちの健康のためにも協力を続けていきたいと思っています。(臨床研究部長 谷口 清洲)



ガーナの自然(植物公園)



③集合写真



⑦神谷先生と子どもたち